

# 吾妹子は 常世の国に 住みけらし

## 昔見しより 変若ちましにけり

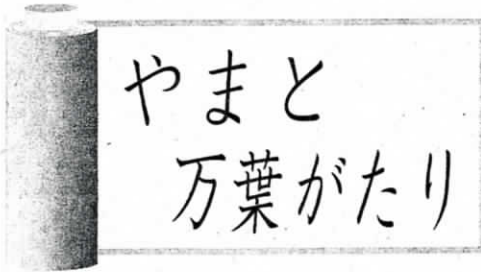
おおもものみより  
大伴三依(巻四・六五〇)

『万葉集』の最終的な編纂者は大伴家持かと言われています。その父は「元号「令和」の由来となった梅花宴の主催者、大伴旅人です。今回の作者の大伴三依は、旅人のいとこ(父親同士が兄弟)にあたります。

あり、歌に「吾妹子」とあることから、女性との再会を飲んだ歌だとわかります。いとこにあたる坂上郎女(旅人の妹)の歌と連続して載せられており、坂上郎女に向けたものかとも言われます。

題詞に「大伴宿禰三依の、離りてまた逢ふを飲べる歌一首」と

この歌は相聞の歌ばかりを収めた巻四にあります。相聞は個人的



な心情をやりとりするもので、男女間の恋情を歌うものがほとんどです。逢えないつらさを詠む歌が多いなか、この歌は珍しい例といえます。女性に敬語を用いて「昔見た時より若返っておられる」と歌っており、今でも再会時の善め言葉(社交辞令?)として十分通じそうです。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

「常世国」は『古事記』などにも出てくる異界で、国作りに協力したスクナヒコナや、神武天皇の兄が常世国に行ったと記されま

「橘」を取りに行

たのも常世国です。

タチマモリが戻った時、すでに天皇は亡く

なっていました。『万葉集』の浦島子を詠む

時、すでに天皇は亡く、印象的な歌を残しました。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

【訳】あなたは常世の国に住んでいたらしい。昔逢った時より、一層若がえっていらっしやるようだ。

れたのに、地上に戻ってしまふなんてばかな人だ、とあります。

地上とは時間の流れ

が異なる不老不死の

国。それを女性の若さ

の理由に持ってくるセ

ンスが面白いですね。

三依の歌は数少ない

ですが、『万葉集』で

大きな役割を果たした

大伴一族にふさわし

く、印象的な歌を残

しました。

(泉立万葉文化館主任

研究員・阪口由佳)

# うち靡<sup>なび</sup>く 春を近みか

## ぬばたまの 今宵<sup>こよひ</sup>の月夜<sup>つきよ</sup> 霞<sup>かす</sup>みたるらむ

甘南備真人伊香(巻二十・四四八九)

今から約140年前  
の1883年2月16  
日、日本で初めて天気  
図が作られたそう  
す。高校の時に入  
いた科学部は、理科  
っぽいことなら何  
ってみる楽しい部  
活で、ラジオを聴  
ながら天気図を書  
くのは難しかった  
ですが、日本の天  
気図記号はおも  
しろく感じまし  
た。晴、霞……(巻二・八八)

やまと  
万葉がたり

番歌)という歌もある  
ように、霞と霧とは古  
くは同様の現象を表  
していたようですが、  
後には、春の霞、秋の霧、  
と季節で明確に使い分  
けるようになりまし  
た。

この歌の霞は動詞として用いられた例で、月がおぼろに霞んでい  
る様子を詠んでいま  
す。歌が詠まれたのは  
757(天平宝字元)  
年12月18日のこと  
あり、太陽暦に換算  
すると1月31日あた  
り。現代日本人の感  
覚からすれば霞がた  
なく季節にはほど遠  
い気がしますが、曆  
の上では立春を迎  
える頃である。短  
歌一首の中に「う  
ちなびく春が近い  
からか、ぬばたま  
の今宵の月は霞  
んでいるのでし  
ょう。」

「ちなびく」と「ぬば  
たま」と二つの枕詞  
があることで、独特  
の奥行きも感じられ  
ます。作者の甘南備  
真人伊香は、もとは  
伊香王とい、臣籍に  
降下して孝謙天皇から  
甘南備真人姓を賜  
った人物です。大伴  
宿禰家持や市原王、  
大原真人今城らと  
親しく、『万葉集』  
に4首の歌を残し  
ました。(県立万葉文  
化館指導 研究員・井上  
さやか)